

男女共同参画社会へ向けて
一人の「100歩」より
100人の「いっぽ」を!!

いっぽ

Vol.13 2019



気づきうなずきフェスティバル ～自分らしい生き方できていますか～を開催

1月26日、御代志市民センターで気づきうなずきフェスティバルを開催しました。オープニングはR in 新体操クラブによる華麗な演技。熊本のタレントまさるさんの講演では、軽快なトークに引き込まれ、まさるさんの悩みや葛藤、生き方は、同じ悩みを持つ人への勇気となり、自分自身の考えを見つめなおすきっかけになりました。木のおもちゃ広場も同時開催。子どもたちは、木のおもちゃに触れて夢中になって遊んでいました。このフェスティバルを通して、一つでも自分らしい生き方のヒントを得て、新しいいっぽを踏み出せればと思います。

合志市男女共同参画推進懇話会とは

合志市男女共同参画まちづくり条例により、市民の視点による男女共同参画のまちづくりを推進し、男女共同参画に関する基本的かつ総合的な施策や重要事項を調査研究するための市民会議です。学識経験、各種団体推薦、公募、市長推薦の委員17人で構成されています。一人ひとりが、職場、学校、地域、家庭その他社会のあらゆる場面で、出来ることから取り組めるよう啓発をしています。今回のフェスティバルも懇話会委員により企画・運営を行なっています。

合志市・合志市男女共同参画推進懇話会

ワーク・ライフ・バランス あなた自身の働き方を見直してみよう ～仕事を効率化して、めりはりワークを実現～



3つの心構え

本気

「ワーク・ライフ・バランス実現のために、仕事を効率化して、労働時間を削減する」この実現に向け、全員が「本気」で徹底的に取り組む。

前向き

「やらされ感」ではなく、全員が納得した上で仕事の効率化に前向きに取り組む。納得できないことがあれば、一度立ち止まってみんなで話し合う。

全員参加

「自分だけは例外」を許さない。「忙しい」を言い訳にしない。すべての仕事で効率化に取り組み、全員のワーク・ライフ・バランスを実現する。

10の実践

1. 会議のムダ取り

会議の目的やゴールを明確にする。参加メンバーや開催時間を見直す。必ず結論をだす。

2. 社内資料の削減

社内資料の作成基準を明確にして、必要以上の資料の作成を抑制する。

3. 書類を整理整頓する

キャビネットやデスクの整理整頓を行ない、書類を探すための時間を削減する。

4. 標準化・マニュアル化

「人に仕事がつく」スタイルを改め、業務を可能な限り標準化、マニュアル化する

5. 労働時間を適切に管理

上司は部下の仕事と労働時間を把握し、部下も仕事の進捗報告を行なう。

6. 業務分担の適正化

業務の流れを分析した上で、業務分担の適正化を図る。

7. 担当以外の業務を知る

周りの人が担当している業務を知り、業務負荷が高いときに助け合える環境をつくる。

8. スケジュールの共有化

時間管理ツールを用いてスケジュールの共有を図り、お互いの業務効率化に協力する。

9. 「がんばるタイム」の設定

自分の業務や職場内での議論、コミュニケーションに集中できる時間をつくる。

10. 仕事の効率化策の共有

研修などを開催して、効率的な仕事の進め方を共有する。

内閣府仕事と生活の調和推進室資料より

何事にも新しいことを始めるとき、その「いっぽ」を勇気を持って踏み出せるように

男女共同参画社会とは

「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」です。(男女共同参画社会基本法第2条)



お問い合わせ

合志市役所
総務課総務・男女共同参画班
TEL: 248-1112
FAX: 248-1196
メール: soumu@city.koshi.lg.jp

まさるの部屋〜性と生とセイっ！〜

講師 まさるさん

皆さんは、LGBTQ（レズビアン・ゲイ・バイセクシャル・トランスジェンダー・クエスチョニング）の人が身近にいますか。私は、小学生のころ親から「あんたは男の子しか見てないね」と言われて、初めて男性が好きなんだと気づきました。でも恋愛対象は女の子なんだと思いついていました。

二十歳のとき、生まれて初めてカミングアウトしました。人生のターニングポイントです。相手は小学校からの親友。引くかもしれない、縁を切られるかもしれない、嫌われないでいい覚悟で言いました。親友の反応は、『で（だから何。私は変わ



熊本を中心にテレビ、ラジオ、インターネットで活動中。今回が講演会デビュー。

らないよ』という一言。人生で一番衝撃でした。20年間親にも誰にも言えなかった私の心がどれだけ軽くなったことか。この一言が私の人生を変え、心の扉が開き人生が楽しくなって輝き始めました。

しかし、最初に、親友に分かってもらえたので、みんな分かってくれようと思いましたが、友達が離れ、ひどいことを言われ、生きづらくなり、悲しい苦しい思いもしました。東京に上京したり、熊本に戻ってきたタレントを始めたり、様々な経験をし、いろんな人と出会う中で、LGBTQについて「理解しようとする、理解する、理解したくない、理解できない」の4つなのだ気づきました。LGBTQというものはない、男と女は結婚して子どもを産むのがあたりまえと思っている人には理解を求めても難しいのだと分かりました。

今、私の周りにいる人たちは、自然に受け入れてくれて、一人の人として私のことを好きな人たちです。

もし身近で性に悩んでいる人がいたら、一緒に考えて、認めて受け止めてあげることが大事です。LGBTQを一番理解してほしい人は血縁関係のある人です。「新しい恋人はできたの」とか普通の生活の会話ができるようになることが一番の幸せで、安心なんです。

LGBTQは、世界中で7億人いると言われてます。自分は、7億人のうちの一人。小さな殻に閉じこもるのではなく、カミングアウトしてもいいし、住んでいるところを変えるのも一つの手です。なにか自分の中で改革をしないと、自分の人生も周りも変わりません。変わりたいと思ったら自分からアクションを起こす。講演を聞いて、周りに悩んでいる人がいたら「こういう話を聞いたんだよね。私はこう思うよ」と話すことから始めてみる。理解するのはまだ先でもいいので、少しずつ距離を縮めていって、焦らずゆっくりと理解していけたらいいと思います。

自分の価値観や視野を見つめ直すいい機会となった。

まさるさんの本音の話が聞いて、心に響き、身近に感じる事ができた。

性別に関係なく、お互い尊重し合って生きることが大事だと再確認した。

性ではなく、人としてその人自身を見ることが大切だと思った。

LGBTQについて知らないことが多かった。いろいろ考えさせられた。

自分らしく生きることを大切にすること。人生は自分から行動しないと始まらないと感じた。

参加者の声

自分の考えに偏見がないか見直すとともに言葉選びも考えていきたいと思った。

子どもたちにも聞いてほしいかった。生きづらい思いをしている子どもたちへの取り組みも必要だと思う。

加したい男性も増えているが、職場や社会がそれを阻んでいるのも事実。

今回、「イクボス」という言葉を初めて知り、夫のためにも子どものためにも、男性の育児参加について会社や社会が理解を深め「イクボス」が増えていくことが重要だと感じた。私が行なっている活動でも、ママだけでなくパパの参加を促すことや「イクボス」の普及に努めていきたい。東さんの「父親が変われば、家庭が変わる、地域が変わる、企業が変わる、そして社会が変わる」という言葉を聞き、子どもの未来を作るのは母親と父親だけではできない。社会が変わり、子どものために素晴らしい未来が開けるならば、それは誰にとっても素晴らしい未来になるはずだと思った。

「男女共同参画」には様々な問題、テーマが含まれていることを知ることができた。研修は私の生活や活動に密着している内容ばかりで、3日間有意義な時間を過ごすことができた。まずはたくさんの人に「男女共同参画」の本当の意味を知ってもらい、身近な問題であることを伝え、研修で出会った方とのネットワークを広げ「男女共同参画社会」「より良い社会」の実現に向け協力し、行動していけたらと思う。



株元 知子さん

平成30年度 男女共同参画社会づくり 地域リーダー育成事業に参加して

市では、地域で活躍する地域リーダーを育成するため、毎年5月頃、県主催の研修への参加者を広報紙などで募集しています。「職場や地域をもっと心地良い場所にしたい」「みんなが活躍できる場所を作りたい」と思っている方、参加してみませんか。

「男女共同参画の研修に行ってみませんか」と誘いを受け参加してみたものの「私に何ができ、研修後どう生かしているか」と多少不安も感じていた。研修の始めに「男女共同参画とは」という基本的な言葉の意味を教えてもらった。「男性と女性、互いにその人権を尊重し、喜びも責任も分かち合いつつ、性別にとらわれることなく、その個性と能力を十分に発揮することができるといふこと、それが社会である」という基本的な考えから参加でなく「主体的に意思決定の過程から参加する」ことを意味している」と聞き「何を学び、何を吸収するのか、そして今後どう繋げていくのか、主体的に考えながら参加すればいいのか」と、これからの研修に期待が膨らんだ。

私には4歳の娘がいるので、どうしても子育てや子どものことについて興味に向いてしまう。今回の研修でも「子育てと男女共同参画」「ワークライフバランスについて」「父親の育児参加について」など、とても興味深い講話を聞くことができた。都会でも熊本でも抱えている問題はあまり変わらず、日本全体で考えていかなければならない問題が多くあることを知った。

わが家は、私が家事全般を担っている。夫も子どもの遊び相手はして

くれるし、頼めばお風呂など世話もしてくれるが、「手伝っている感」が拭いきれない。もう少し自主的（主体的）にやってもらいたいと常々思っていたが、フルタイムで仕事をしているわけでもないため、ただ単に私のわがままなのか、自分ももう少しできればいいだけなのではと思いい、頼むことや話し合うことをしななかった。

しかし、今回2泊3日の研修が決まり、夫には期せずして「娘の世話を全て一人でやらなければいけない」というミッションが与えられることとなった。幼稚園のお迎え・ごはん・お風呂・着替え・歯磨き・寝かしつけ：それぞれ単発ではやっているが、全てを一人するのは初めての経験。不安もあったが、ある程度準備し、あとは任せて家を出た。結果は、特に問題なく二人で楽しい時間を過ごせたようだ。

ファザリング・ジャパンの東さんの講義で、父親が子育てに参加することは、子どもにも、妻にも、父親本人にもメリットがあり、みんなが幸せになるという話を聞き「私の『手伝い』ではなく、自分のため、娘のためにもっと関わってもらいたいんだ」と思えた。しかし、普段は帰りが遅くなかなか育児参加ができないのが現状である。子育てに参